

新春なすかしフェスティバル 報告書

1. 趣旨

自己表現の性格が強い書道やだるまの絵付けを体験することを通して、文字や絵の綺麗さや正しさととらわれず自由な発想で表現することで、日本や地域の伝統に親しみを感じるとともに、自分のイメージや思いを表現したり伝えたりする楽しさを味わう。

2. 期日

令和6年2月3日（土）

3. 会場

国立那須甲子青少年自然の家（福島県西白河郡西郷村大字真船字村火 6-1）

4. 参加者

27家族 78名（未就学児 12名、小学生 30名、保護者 36名）

5. 講師

根本 みき 氏（書家）

6. 活動内容

（1）書道パフォーマンスの鑑賞

講師の根本みき氏による書道パフォーマンスを鑑賞した。パフォーマンスでは、特大用紙に「創」の文字を書いていた。書き、文字に込めた思いなどをお話しいただいた。お手本通りに綺麗に文字を書くことが重要ではなく、自分の表現したいことを文字に込めて思い切り書くことの魅力を感じることができた。



図1 書道パフォーマンスの様子

（2）書道体験

書写が苦手な子供でも体験への抵抗感が低くなるよう、自己表現の性格の強い書道体験を行った。また、普段から書写に親しんでいる子供でも体験の機会が少ない内容にするために、パフォーマンス用の筆を用いて、特大用紙に文字を書く体験を行った。

参加者は「今年の目標を漢字一文字で表現しよう」をテーマに、壁に貼られた縦1.5m、横15mの特大用紙に文字を書いた。

また、その後は絵の具で加筆し、より芸術的な体験となるようにした。参加者からは「大きな紙



図2 書道体験の様子

に大きな筆で墨を撒き散らしながら書く書道がこんなに楽しいとは思いませんでした」「下の子は字を書くのが苦手でしたが、学校とは違いどんな風に書いてもいいことがわかると楽しくできたようです」などの感想が寄せられた。

### (3) 白河だるまの絵付け

白河地方の伝統工芸品である白河だるまの歴史的背景を説明したうえで、縁起物としてどのような願いを込めるかを考えてから絵付けを行った。自由な発想で絵付けを行うよう促したことで、お手本通りに描くのではなく、込めた思いが表現されるように工夫する姿が見られた。



図3 白河だるまの絵付けの様子

## 7. 事業の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 「書道パフォーマンス用の筆で特大用紙に文字を書く」という学校や家庭では体験することの難しい活動内容としたことで、参加者の書道体験に対する動機づけが高まり、自分のイメージや思いを表現したり伝えたりすることに対して主体的になることができたと考えられる。
- ・ 自己表現の強い書道体験を提供したことで、文字の綺麗さにとらわれず、表現することの楽しさに気づくことができたと考えられる。

### (2) 課題

- ・ 準備と片付けに多大なコストが発生した。特大用紙を設置するための壁の設営、床等の養生、使用した筆の洗浄など、多大な予算や時間、人員が必要となった。環境設定を見直し、効率的な運営方法を検討する必要がある。

【作成】事業推進係員 杉本守